

またそれが呼ぶ材料にもなるなと思いますので、しっかりした対応のほうをお願いして、これで、私の一般質問終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

11時20分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時16分 休憩〉

〈午前11時20分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、関原奈津美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。〔5番 関原奈津美君登壇〕

○5番（関原奈津美君）

みらい創造クラブの関原奈津美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、糸魚川市の除雪体制の維持と向上について。

糸魚川市においては、現在、広範囲にわたり除雪作業されております。除雪作業に従事されている皆様におかれましては、早朝より出動していただき、市民生活を支えてくださっていることに心より感謝申し上げます。

その中において、除雪作業ではオペレーターの人材不足や高齢化、除雪機械の維持管理費の増大により、安定した除雪体制の確保が課題とされております。その一方で、糸魚川市では、除雪管理システムを導入したことにより、除雪車の稼働状況がリアルに把握できることや除雪費の集計作業の負担が軽減され、業務の効率化が向上されています。

雪国の糸魚川市においては、今後、安定した除雪体制の確保と除雪作業の向上のため、市長の考えを伺います。

（1）市が所有する除雪機械の管理について伺います。

（2）消雪パイプの管理について伺います。

2、上越圏域の医療再編に伴う糸魚川市の医療体制について。

4月28日に開催された市民厚生常任委員会協議会において、新潟県の担当の方から上越圏域における医療再編について説明を受けるとともに、意見交換をさせていただきました。そして、6月6日及び7日には、上越圏域における医療再編について住民説明会が開催されたところであります。

こうした協議や説明会を経て、今後、糸魚川市の医療体制がどのように変化していくのか、また現在の医療体制を維持していくことができるのかについて、市民の間には大きな不安と懸念が広がっております。上越圏域の医療再編の動きを踏まえた今後の糸魚川市の医療体制の在り方について、

どのような方向で確保、維持を図っていくのか、市長のお考えを伺います。

(1) 糸魚川市における医師の確保と地域枠の在り方について伺います。

(2) 上越圏域の医療再編に伴う、患者情報の共有体制について伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

関原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の市が所有する除雪機械の管理につきましては、市が維持管理経費を負担する中で、現在、それぞれの機能を有する83台の除雪機械を除雪業務受託者に貸与し、除雪作業を行っております。

また、更新計画を作成し、おおむね25年を経過した機械から順に更新を行っております。

2点目の消雪パイプの管理につきましては、市内には管路が244路線64.3キロメートルにわたり設置されております。降雪期前に点検を行い、不具合のある箇所については随時、修繕等の対応を行っております。

また、水源である井戸につきましても、計画的にポンプ等の点検を行い、必要に応じて井戸洗浄や修繕を行っております。

2番目の1点目の医師確保と地域枠の在り方につきましては、医師確保は地域医療を維持する上で重要な課題であり、引き続き、病院や大学、県と連携しながら確保に努めてまいります。

また、地域枠制度は医師の地域定着に有効な仕組みであることから、その活用を促進してまいります。

2点目の患者情報の共有体制につきましては、医療再編を行うに当たり、市民が安心して必要な医療を受けられる体制を確保することが重要であります。

市といたしましても、県や関係機関との協議を通じて、必要な情報共有を含めた円滑な医療連携が図られるよう働きかけてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

では、大きい1番の（1）市が所有する除雪機械の管理について再質問いたします。

先ほど市長の答弁により、市が貸与している除雪機械は83台ということでしたが、それらの除雪機械の平均使用年数や走行距離などを踏まえた方針計画書等は作成されておりますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁でもありましたとおり、市のほうでは、現在８３台の除雪機械を除雪業務受託業者のほうに貸与させていただきまして、除雪作業のほうを行っていただいているところでございます。

使用年数をベースとした更新計画書のほうを作成しておりまして、おおむね２５年を経過した機会を更新しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○５番（関原奈津美君）

市が所有する除雪機械の年次点検について、お伺いいたします。

毎年、冬季を前にした１１月頃に集中的に実施されているかと思います。多くの除雪機が一斉に点検作業を行うことにより、整備を担っておられる業者の方から、この時期は残業や休日返上で対応せざるを得ない状況にあるとお聞きしております。

こうした繁忙の集中をできる限り回避するため、例えば半年前の今の時期から計画的に年次点検を出すことはできないでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

整備業者の皆様におかれましては、市の所有する機械のほかに、国、県、民間企業が、保有する機械につきましても点検・整備のほうを行ってることから、短期間での作業となりまして、冬季を迎えるに当たりまして、非常に多忙な日々が続いてるとお聞きしております。

市としましても、整備業者の皆様の負担を軽減するように、今後も早期の発注を心がけていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○５番（関原奈津美君）

先ほどのご答弁により、機械の購入後、約２５年をめどに考えられてるということでしたが、市より対与している除雪機において、ロータリー除雪車が雪を飛ばせずに、結果として除雪作業の効率が上がらない機械があること、また、度々機械が故障し、除雪作業がストップしてしまう状況が生じていると除雪業者の方からお聞きしますが、そういった声は行政の方にも届いていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

昨年度の冬期間に、今ほどお話ありました事案が発生したことにつきましては、私どものほうも把握のほうをしております。

除雪受注業者から機械の故障の連絡を受けた際には、速やかに修繕対応を依頼してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

雪が飛ばせずに除雪作業の効率が下がると、通勤と通学までに道を確保することが難しくなりますので、市民の皆様の生活に支障を来すことにもつながりかねませんので、除雪車の年次点検の際にそういった機械について検討していただけたらと思います。

次に、糸魚川市においては、大型の除雪機、除雪車が入れない住宅街の道路や通学路の歩道などにおいて、地域の皆様が協力して、小型除雪機で除雪作業を行っているところがあります。こうした地域の自主的な取組があつてこそ、冬期の安全な生活が支えられているものだと思っております。

一方で、地域によっては小型除雪機を操作できる住民に限られており、高齢化が進む中で、その方々に負担が集中しているのではないかと感じます。地域ごとに小型除雪機を安全に操作できる方ができるだけ多くいたほうが負担の平準化にもつながり、持続可能な地域除雪体制の構築にも資するものと考えます。

そこで、現在、糸魚川市では、各地域の住民を対象に小型除雪機の講習会や安全な取扱いに関する呼びかけ等は実施されていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

今ほど議員おっしゃったとおり、小型除雪機を操作できる方が限られてきてる。負担が、その方に集中するということは非常に課題であると捉えております。地域における小型除雪機の安全対策につきましては、講習会等は実施しておりませんが、毎年シーズン前に、各地区に対しまして安全作業の秘訣10箇条という小型除雪機の事故防止を目的として作られたマニュアルのほうをお渡ししまして、安全な取扱いについて、周知のほうを行つてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

現在、講習会は実施してないとお答弁でしたが、全国各地で小型除雪機による事故が発生してい

るという報道も耳にします。機械の操作に抵抗ある方も多くおられると思いますが、講習会を開くことで機械に触れ、安全な取扱いを学びながら操作体験をしていただくことで、地域の除雪作業を担う住民の皆様が、安心して小型除雪機を活用できるようになるのではないかと思いますので、小型除雪機の講習会の検討や機械の安全取扱いに関する呼びかけを続けていっていただきたいと思います。

次に、（２）消雪パイプの管理について再質問いたします。

糸魚川市における消雪パイプは、冬期の安全な通行を確保する上で重要な役割を果たしていると認識しております。その消雪パイプの点検方法について伺います。

消雪パイプの点検につきましては、降雪前に散水状況の確認やノズルの調整、配管の漏水箇所がないかをチェックするものですが、降雪前の点検は、例年、いつ頃実施しているのか、時期と実施体制をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

消雪パイプの降雪前点検につきましては、例年、降雪前であります１１月中に、業者及び自治会に委託のほうをさせていただきまして、行ってるところでございます。

また、降雪期におきまして、月に１回から２回の頻度で点検のほうを行ってるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○５番（関原奈津美君）

消雪パイプの点検は、降雪前の１１月頃に行われているということですが、その際に判明する消雪パイプの不具合の路線の対応でございまして。

糸魚川市において、井戸の水量不足や排管の詰まりなどにより、本来の機能を十分に果たしていない消雪パイプの区間が多く見られます。こうした不具合が生じている箇所について、行政としては把握されておりますでしょうか。

また、降雪前の点検作業で不具合が生じたとき、どう対応されておりますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

消雪パイプの不具合につきましては、業者とか、あと自治会のほうからいろいろ、漏水したとか、要は状況の報告のほうを常にいただいております、私どものほうも把握しております。その都度、

現場のほうを見させていただきまして、随時、修繕工事で対応のほうをしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

消雪施設の改修には、多額の費用を要することから、全てを一度に改修することは難しいと理解しております。

しかしながら、消雪パイプの不具合により十分な散水が行われず、雪が路面にたまって車両の通行に支障を来している箇所が、毎年見受けられます。機能していない区間については、そのままにしとけば住民の方々の生活に支障を来すことになります。

そこで、冬を前に毎年開催されている除雪会議において、機能を果たしていない消雪パイプの路線や区間をはっきりと把握した上で、当面の対策として、機械の除雪路線として追加していただくことはできないでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎都市建設課長。〔都市建設課長 長崎英昭君登壇〕

○都市建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

消雪パイプの不具合によりまして、車両通行に支障が出ている区間につきましては、現在も、冬を迎える前の、各地区で除雪会議のほうを実施しておりまして、職員のほうが状況のほうはしっかり聞き取りしまして、把握のほうを行ってるところでございます。

また、把握した路線につきましては、修繕工事等で実施できない場合は、機械除雪の路線に追加させていただきまして、除雪体制を強化するなど、柔軟な対応を図ってるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

消雪パイプの不具合が生じている路線については、見た目には整備が設置されているにもかかわらず、実際には十分な消雪効果が得られず、市民の方々の危険性や不便さを感じております。どの路線で消雪機能が低下しているか。

また、その区間について当面の間どのような方法で対応していくのかを示すことは、冬期の安全な通行の確保につながると考えますので、消雪機能が低下している路線と当面の対応方針について、市民の方へ周知していただきますよう検討をよろしくお願いします。

また、こうした課題は、市道に限らず県道においても同様に生じることから、関係機関である県とも連携を図りながら、冬期の安全な通路確保をお願いいたします。

次に、大きい2番の（1）糸魚川市における医師の確保と地域枠の在り方について、再質問いたします。

先ほどの発言通告書で申し上げましたが、4月28日の市民厚生常任委員会協議会において、新

潟県の担当の方から上越圏域の医療再編について説明を受けました。その際に、新潟県は令和2年度から医学部の地域枠に力を入れており、12大学に77枠を確保し、将来の地域医療を担う医師養成に努めていただいております。令和2年度に入学した地域枠の医学生は、令和8年度より順次に県内の病院へ配置され始めておりますが、糸魚川市内の病院へは、令和8年度に配置されましたでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院については、今年度、配置になっておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

新潟県全体として、地域枠医師の配置が進む中で、市内の病院には1人も配置されないという状況をどのように受け止めておりますでしょうか。

また、こうした中、県の働きかけにより、令和5年度から日本大学と糸魚川市が連携した地域枠を、糸魚川市のための1枠が設置されております。同1枠の1期生が卒業し、現場に配置されるのは、令和11年以降になるかと思いますが、その時期を見据え、糸魚川市である糸魚川総合病院での勤務へつげていくため、今現在、糸魚川市として、県や日本大学とどのような調整や働きかけをしていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

県のほうが主体になってやってる事業でございますので、大学への働きかけていうのは県のほうから行っていただいております。私ども、修学資金をお借りになっている、今回の地域枠の学生の皆さんとは、年に1回、面談、ウェブを通しての面談であったり、あと、実際に糸魚川総合病院においでになったときに、直接お会いしたりということで接点を持ってるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

日本大学と糸魚川市が連携した地域枠を1枠設置しても、受皿となる当市の体制や環境が不十分

であれば、医師の長期的な定着にはつながらないと考えます。

糸魚川市としても、令和8年度予算において医師の確保を重点施策の一つに掲げ、多様な助成金を通じて医療体制の維持に努めていると承知しております。地域枠で来られる若手医師の方にとって、糸魚川市が魅力ある勤務先であると思っていただくために、病院としての診療体制の設備に加え、医師の方へ直接つがる支援、例えば住宅や子育て、生活面での支援及び医師としての専門性を高められる勤務体制が必要かと思います。

当市において、生活支援策や勤務環境整備、キャリア形成支援など、若手医師が長く勤務したいと思っていただけるような支援や体制は、糸魚川市において十分整っているか、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私どもは、当市が行っております医師確保対策事業の中で、多額の予算を執行しておりますが、この中で、医師の方の通勤をされる交通費であったり、住宅費用であったり、そういったものを病院側に補助させていただいてるものでございますし、まず、若手の医師が糸魚川総合病院に来ていただけることには、やはり常勤医がいるということが大前提であって、そこに指導していただける先生がいないと、なかなか若手の医師が臨床研修医等で来ていただけないということですので、その辺も含めた医師確保に努めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

今後、医師の確保策をさらに前進させるため、糸魚川市として地域枠を1枠にとどめるのではなく、地域枠の拡充を図っていくことも重要ではないかと考えます。地域枠については、卒業後5年の勤務を条件とする仕組みとなっておりますが、私は、この5年間を終えた後も、引き続き糸魚川市で勤務し続けていただけるよう、医師の勤務体制を強化することが重要だと考えます。医師が十分な休暇を確保できることはもちろん、糸魚川市の自然や食、歴史など、観光資源に実際に触れていただき、糸魚川市が魅力ある勤務先だと思っていただくためにも、まずは必要な医師数を確保し、過度な負担が特定の医師に偏らない体制づくりを進めていくことが必要ではないかと思います。今後、地域枠の拡充について、県や大学に対して具体的な働きかけを行っていくお考えはありますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

地域枠の拡充については、短年度で2人、3人というような拡大は今のところ考えておりませんで、毎年度、県の地域枠の採用をお願いしてるところでございます。令和5年度から、5、6、7、8と今4年間、4人の方に支援をさせていただいてる状況でございます。

今後も、これを継続すること、そして日本大学だけではなくて、ほかの大学との連携というものも将来的には考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

医師の確保の観点からお伺いいたします。

糸魚川市においては、救急搬送の体制について、令和7年10月より、週に1日、よしだ病院が受けることになっておりますが、この新たな体制に移行したことにより、糸魚川総合病院の医師の負担軽減には、どのような効果があったのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

昨年の10月から、そのような体制に移行しておりますが、その後、よしだ病院のほうでは、ちょっと医師の体制の問題もあったりして、なかなか救急の受付ができていないのが現状でございます。救急車も100%、糸魚川総合病院のほうに回るという仕組みになっておりますので、現状、糸魚川総合病院の負担というのは、あまり変わっていないということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

糸魚川市においては、これまで長年、医療の存続、医師の確保に向けて新潟県や富山大学に粘り強く要望活動を続けてまいりました。その結果として、新潟県の働きかけにより、糸魚川市と日本大学の連携した地域枠が、1枠設置されたものと受け止めております。

久保田市長におかれましては、令和7年9月議会の東野議員の一般質問において、9月議会終了後、10月に順天堂大学へ高度医療の受皿の検討や総合診療科医の派遣についてお願いする旨のご答弁がございました。その後、久保田市長は、実際に順天堂大学へ訪問され、どのような協議や要請をされ、現時点で具体的にどのような成果や今後につながるお話があるか、お聞かせください。

また、順天堂大学と連携を取ることで、糸魚川市の医療体制の選択枠を広げる上では重要だとはありますが、一方で、これまで長年にわたり、前米田市長が築いてきた新潟県と富山大学との

関係バランスも大切であると考えます。順天堂大学と連携を深めることにより、新潟県や富山大学との協力関係に弊害や支障が生じるおそれはありませんか。

もしそのような懸念があるとするれば、どのように整理し、調整していくのかも含め、久保田市長の考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、最後のほうの懸念される部分であります。当然、事前に新潟大学、そして富山大学には、こういうふうな方向性を持って医局との対応をさせていただきたいという部分の事前了解は得た上で対応をしておりますので、順天堂大学との交渉において、富山大学、新潟大学との何らかの関係の悪化することは一切ないというふうに考えております。

逆に、新潟大学の当時の学長からは、もし必要であれば、自分なりに説明もさせていただく旨も一応、内々の話で受けておりますので、そういう懸念材料はないというふうに考えております。

また、昨年10月以降、実際に今度、担当が企画課のほうで、大学との交渉窓口を設置し、また健康増進課と順天堂大学との連絡体制については、引き続きつけております。

また、医学部だけにかかわらず、大学全体のリハビリテーション、看護、国際教養、スポーツ健康科学等も、全体的な連携を含めて、今、交渉・折衝に当たっております。

そういう部分において言えば、これから地域医療の在り方、糸魚川総合病院の常勤医という体制ではなくて、まちなかクリニック、また、オンライン診療における大学との役割を、また引き続き協議しながら進めていけるものだというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

当初、想定していた高度医療の受皿や総合診療科医の派遣について、現時点で実現に至っていないことや、先ほどの救急搬送の体制につきまして、こうした重要な協議が、市長の思いや判断だけが先行し、事前に市役所内で十分な検討や関係機関との合意形成が不十分なまま進められていたのではないかと懸念する声を頂戴しております。今回のような重要な医療政策に関する判断に当たっては、行政の方が専門的な知見や現場の状況に基づく意見をきちんと市長に申し上げ、場合によっては方向性を見直す提案をできるような、健全な議論が確保される行政であっていただきたいと思います。

私たち市議会におきましても、糸魚川市にとって重要な協議につきまして、その内容や影響について丁寧に議論を重ねていくことも必要であると考えます。この点について、どのようなお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私ども担当課として、医療の問題については、市長と事あるごとにお話しをさせていただいて、進めてまいっておる状態ですし、今後もそのように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

先日、新潟日報の報道において、J A新潟厚生連全体の2025年度の決算が、3年ぶりに黒字決算となった旨が伝えられておりました。

一方で、糸魚川総合病院におきましては、依然と赤字経営が続いている状態でございます。今後も糸魚川総合病院が、糸魚川市の地域医療を支え、維持・確保していくために、引き続き新潟県や富山大学に対し、粘り強く要望活動をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、（2）上越圏域の医療再編に伴う患者情報の共有体制について再質問いたします。

上越圏域の医療に伴い、糸魚川市においては高度急性期医療に該当する患者につきましては、上越の中核病院で集中的に治療を受け、その後、症状が急性期のレベルまで安定した段階で、糸魚川総合病院が受け入れるという流れが明確になっていくものと認識しております。さらに、急性期の治療を終えた、回復期、慢性期の治療につきましては、介護施設や在宅医療、訪問看護などへつないでいくことが想定されております。

このような上越圏域全体で高度急性期から急性期、そして介護や在宅へ至る一連のシステムの中において、医療機関同士や医療機関と介護施設との間で患者の情報を適切に共有することが、これまで以上に重要になってくるかと思えます。

糸魚川市においても、医療機関と介護施設や在宅介護事業者、ケアマネジャー、そして患者さんのご家族が同じ情報を共有し、同じ方向を向いて支援できる体制づくりが重要と考えます。現場からは、患者に関する情報が医療機関と介護施設が十分に共有されていないのではないかという声に加え、中核病院へ搬送された際に、これまでの病状や生活の様子がどこまで先方に伝わっているのか不安だというご家族からの声も頂戴しております。こうした現場の職員さんやご家族の不安な声を糸魚川市としてどのように把握していますか。

また、現在、糸魚川市における医療と介護施設や在宅介護事業者、ケアマネジャー、ご家族との間で、患者情報の共有はどのような仕組みにより行われているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

おはようございます。

お答えいたします。

医療介護連携ということで、医療介護連携協議会でありましたり地域医療の連携会議というところで、県のほうが主催する会議、市、福祉事務所が中心となっていく会議等、幾つか会議にはございまして、その中で課題の協議というものが行われております。

福祉サイドのほうからにつきましては、その協議会の中で部会のような形で協議する場もありまして、糸魚川総合病院のほうでは、連携の様式というものを用意しておりまして、救急のときに、入院したときには情報がすぐ連携できるようになっていることと、また逆に、退院したときにも情報が、地域のほうの介護の施設であったり、ケアマネジャーであったりというところを連携できるような、そういった様式を利用しまして連携するような体制を取っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

北海道の旭川市においては、入退院時における医療と介護の切れ目のない連携を進めるため、旭川市入退院時の医療と介護の連携の手引というものを作成しております。市として、医療機関と介護事業者がどのように情報共有を行うかを明確に示されております。

この手引の中では、入退院の際に、医療機関と介護施設、在宅介護事業者が同じ様式を使用して患者さんの情報を共有する仕組みを整えております。これにより、病状や治療内容だけではなく、日常生活の様子やご家族の意向も含めて、関係者が同じ情報を基に退院後、生活を見通した支援ができるように工夫されております。

糸魚川市においても、こうした取組を参考にしながら医療機関と介護施設、ケアマネジャー、ご家族が、共通の様式で情報を整理・共有できる仕組みについて、上越圏域の医療再編の議論の際に検討していくことは必要かと考えますが、糸魚川市の考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

そのような形での様式は、糸魚川市のほうでも、先ほど答弁しましたように作成をしております。また、上越圏域ということでは、上越、妙高市が共通の様式ということで運用しております。

そういったことで、医療においては上越圏域ということで動いておりますので、今、糸魚川市独自の様式ということになっておりますが、また、上越、妙高のほうとも、その連携様式というところも、さらに協議をする中で、圏域全体のところを協議ということをしていきたいというふうに、今後考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5 番（関原奈津美君）

最後にお聞きします。

現在、上越圏域の医療再編の議論を進める中で、先日の医療再編の説明会に参加された市民の方から、これからの糸魚川市の医療体制がどのように進んでいくのか、自分がどのように理解をしたらいいのか不安な声をお聞きしました。こうした市民の不安や受け止めも含めた上で、糸魚川市の今後、医療提供体制はどのような方向に進んでいくのか、糸魚川総合病院の役割も含め、糸魚川市の考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

上越の医療構想調整会議の中でも、糸魚川市の医療については現状維持というのが基本的に認められていて、皆さん、それで納得されている部分でございますので、現状の医療体制は、基本的には維持していくということでございますが、今後、中核病院ができて、上越のほうに一部の機能が移っていくときには、一部の機能はそちらのほうへ移っていきます。

ですが、基本的な救急であるとかそういった機能は、糸魚川で今までどおり維持していくという考え方で進んでいくものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5 番（関原奈津美君）

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、関原議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

それでは、昼食時限になりましたので、13時ちょうどまで暫時休憩といたします。

〈午後0時03分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○副議長（保坂 悟君）